

地域自慢

大坂夏の陣から続く小張松下流綱火！

つくばみらい市立

小張小学校・4～6年

地域のお祭り「小張松下流綱火」

つくばみらい市小張の愛宕神社には、8月に「松下流綱火」というお祭りがあります。毎年、多くのお客さんが来て、夜店もたくさんあるので、みんな楽しみにしています。



調査理由 愛宕神社でのお祭りでは、花火と操り人形が披露されます。他のお祭りでは、花火と操り人形を一緒にやることはめったにありません。また、毎年、小張小の4～6年生もお祭りの一部である「繰り込み」に参加しています。

なぜ、花火と操り人形が登場するのか、なぜ、小学生も参加するのか不思議に思い、「小張松下流綱火」の歴史について調べることにしました。

調べ学習と体験活動

テーマごとにグループを作り調べていきました。なかなか資料がないので、綱火保存会の方に来ていただき、綱火について教えていただきました。「小張松下流綱火」は400年以上の歴史があること、国の重要無形文化財であること、綱火を始めた人が火薬師であったこと、昔、人形は神や人間の「形代」だったことがわかりました。

また、松下流綱火家元の大橋さんや綱火保存会の方に来ていただき、8月の「繰り込み」の前にはお囃子で使う太鼓や篠笛、鉦の使い方を教えていただき、11月の小張小秋祭りでの「綱繰り」の前には人形の操作の仕方を教えていただきました。



繰り込み

夜、お囃子を樺でながら愛宕神社まで練り歩きます。



すごい！今年も上手にできたね！

「綱繰り」毎年

小張小学校「秋祭り」では、操り人形を操作する「綱繰り」を行います。一所懸命練習して臨みます。



綱火研究発表会

毎年2月には、調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめ、研究成果を発表します。保護者や地域の方を招き、綱火について知ってもらいます。また、毎年研究史も作成しています。

今年で28年目



小張城主は、本多忠勝とともに関ヶ原の戦いにも参加したよ！

プレゼンテーション資料



まとめ「小張松下流綱火」には、小張城主松下石見守重綱が大坂夏の陣の後、戦いの犠牲者を慰霊する行事として始めたことがわかりました。また、家元が苦勞して受け継いできたこともわかりました。地域の伝統行事を調べたり実際に参加したりすることで、その行事の歴史や伝統を守る人たちの願いを知ることができました。これからも保存会の人たちとともに大切にしていきたいです。